

陸上競技がさかんな地域性もたらす、恵まれた環境と好循環

部員数74名。陸上を始めたのはいつからですか？」と聞くと、「小学校の時に……」という声や「中学校で大会に……」という声が多く聞かれる。

「この辺りは陸上がさかんです。特に中学校に陸上に熱心な先生が多いことが影響しているのかな？」と思います。柳形中学、巨摩高校陸上部のOB・OGで、地域に戻って指導者になっている方が多く、陸上に打ち込める環境が整っています。」

こう話すのは、巨摩高校陸上部・小林直樹先生。小林先生は巨摩高校陸上部で指導歴20年以上。リオオリンピック男子400mハードルで準決勝に進出した野澤啓佑選手（ミズノ）も教え子のひとりだ。

「高校から始める子もいますし、小学校で陸上を少しやって中学では別の部に入り、高校で戻ってくるという子もいます。中学校で季節的に大会に出場し、そこで勝ったことで陸上の楽しさに目覚めるという子もいますよ。」

2018年県高校総体競技別学校対抗得点で男子第2位にチームを引っ張った元男子部部長・水越将司さんは中学生の時に陸上をはじめた。

ら、空気を明るくするムードメーカーの彼女！」と井上咲音さん（2年）を推薦。「練習の中から自然にコミュニケーションが生まれます。みんな仲良くて、部活に来るのが本当に楽しい。練習がきつくて、いい結果が出なくて落ち込んでいても、仲間の存在に救われています。仲の良さが、こまりにくいの良さです」と新部長は部のいいところを聞かせてくれた。

一方、男子部新部長・柳澤晋太郎さんは「まずは新人戦連覇。それと県高校総体の総合優勝を目指したい」と結果にこだわった目標をきっぱり。そんなインタビュ어의傍も、練習している部員たちはとにかく明るく、あちらこちらから笑い声が聞こえるのが印象的だった。

伝統的な強さと環境と好きこそ物の上手なれ

県高校総体100mハードルで大会3連覇&大会新記録樹立、7種競技と2冠の三吉南緒さん。笑顔がトレードマークの彼女だが、南関東ではインターハイ優勝を目標に掲げた本種の100mハードルで予選敗退。7種競技ほとんどの種目を泣きながらやり遂げ、2位でインターハイ出場を決めた。「インターハイは本当にみんなのおかげです。行か

伝統と環境とコミュニケーション

100mハードルで大会3連覇かつ7種競技でインターハイ出場を決めた三吉南緒さんが所属する笑顔でのびのびと身体を動かす部員たちの姿が目映りました。「核となる子がいて、也顧問。今月、ただいま編集部は巨摩高校陸上部の強さをつくるものを探りました。



小林直樹先生



顧問/澤辺拓也先生

巨摩高校陸上部・強さの秘密。

リオオリンピック出場選手を輩出し、今年の県高校総体では男子陸上総合2位。さらに、属する県陸上競技の強豪・巨摩高校。部員数74名という大所帯の練習風景をのぞくと、明その子たちを中心に、みんなが「勝つために自分がやるべきこと」を考えています」と澤辺拓



陸上部3年生 三吉南緒さん

男子元部長3年生 水越将司さん
男子新部長2年生 柳澤晋太郎さん
女子元部長3年生 相原咲良さん
女子新部長2年生 井上咲音さん

「みんな陸上が好きなんだよね！」

「陸上をはじめて人生が変わったといってもいいほど。やればやるほど課題が出てきます。けれど、やればやるほど成長できるから陸上は面白い。奥が深いスポーツだと思います」と、話す。

自主性を尊重した練習風景
それぞれが目標を明確に描く

取材に訪れたのは、大会明けの夕練。芝生でのウォーミングアップの後、メーカーを使用してスプリントドリルをしたり、トラックで流しをしたりと軽めのトレーニングの日だった。顧問の澤辺先生は、「競技ごとに大枠でのトレーニングメニューを考えていますが、選手の自主性も重んじています。それぞれ自分たちで考えて、工夫しながら取り組んでもらうことも多いです。もちろん、我々も相談のついで練習内容を一緒に考えています。みんな、よく努力して練習していますね」と愛おしそうに部員を見ながら話します。

大きな大会で勝ちたい部員や自己記録更新に奮闘する部員、陸上を楽しみたい部員など、目標や目的はそれぞれ。巨摩高校の指導陣は、選手の自主性を尊重して徹底的なフォローに回っている。

「陸上は個人競技と思われがちですが、私たちがとっては団体競技。辛い練習も声を掛け合って頑張るなど、みんなと一緒にだから、出来るんです」と話す女子部元部長の相原咲良さんは、次代の部長に「みんな楽しんで部活をやってほしいから」と話している。

一通り笑顔で話し終えたあと「巨摩高校陸上部が本当に大好き。ライバルがいて、仲間がいて、心が落ち着く場所でもあって、人生の中で欠かせない場所です。卒業のことを考えると「どうしよう」となると「どうしよう」と表情をコロコロ変えた。

指導陣はベンチで部員と談笑したり、フィールドで身体を動かす部員たちを見つめていたり。そんな二人に何人もの名選手を輩出した背景を探ろうと「部の強み」を直球で訪ねてみた。顔を見合わせて出てきた返答は一言。



山梨県立
巨摩高等学校

〒400-0306
山梨県南アルプス市小笠原1500-2
TEL.055-282-1163
FAX.055-282-1104

www.ko.kai.ed.jp

www.ko.kai.ed.jp/student_council/rikujo